

2025年6月12日に市立ひらかた病院でミュージック・シェアリング「訪問コンサート」が開催されました。特定非営利活動法人ミュージック・シェアリングが行う訪問プログラムとは、バイオリニストの五嶋みどりさんをはじめとする協力アーティストが小学校や特別支援学校、病院、高齢者施設などを訪れ、音楽コンサートをするものです (<http://www.musicsharing.jp/>)。

あの！世界的バイオリニストの五嶋みどりさんが、当院にお越しになる！！



五嶋みどり Photo:Timothy Greenfield-Sanders

(お写真は <https://spice.eplus.jp/articles/267699> より引用)

ここで五嶋みどりさんのお言葉を引用させていただきます。

「ミュージック・シェアリングは、人々にとって本物の音楽、音楽家がもっと身

近なものになるようにし、豊かな人間性をめざす環境作りの手助けを行います。  
たくさん子どもたちや高齢者の方々が教養を高め続けられるようにするために、本物の音楽を通じて活動し、その内容を常に見直し、時代に先立って新たなプログラムを創造し続けていきます。」

主任部長、その日はコンサートの始まる時間からすべての業務を逆算して、鬼気迫る勢いで片付けました（笑）。いよいよ 14 時 30 分、緩和ケア病棟でコンサートが始まりました。緩和ケア病棟とは、皆さん、聞きなれない名称かも知れません。緩和ケア病棟とは、主に末期の癌患者さんが入院される病棟です。彼らは、積極的な癌治療（手術、抗がん剤治療など）ではなく、癌の進行などに伴う体や心のつらさを緩和する治療を受けるために入院されます。緩和ケア病棟に入院している多くの患者さんが、ご自分の余命がそう長くないことを感じておられる、そんな病棟です。緩和ケア病棟は当院で一番眺めの良い最上階に位置しており、全面ガラス張りの窓からはさんさんと日が降り注ぎ、素晴らしい枚方の景色が一望できます。そんな緩和ケア病棟の入り口付近のサロンに、多くの患者さんが集まりました。点滴棒につるされた補液バックで点滴を続けながら車いすに座っておられる患者さん、鼻に酸素チューブをつけて酸素ボンベと一緒に座っておられる患者さん、ベッドごとサロンに移動してきた起き上がる力も残っていない患者さん、みんな病衣を着ています。

五嶋みどりさんとそのお仲間は、そんな患者さんのために、美しくも楽しい音楽を、2台のバイオリン、ビオラとチェロの弦楽四重奏（カルテット）で届けて下さいました。五嶋みどりさんのバイオリンの音色は、その小柄で華奢な体からは想像もつかないほど、力強く澄み切っていました。端っこで聞かせて頂いていた医療従事者も、本当に心が洗われるひとときでした。その後、小児病棟と一般病棟で場所を変えて、それぞれの病棟の患者さんにも素敵な音楽が届き、盛大な拍手と共に訪問コンサートは幕を閉じました。



主任部長、娘たちと一緒にコンサートホールでオーケストラやピアノの演奏を楽しむ機会がしばしばあります。ずいぶん前から計画してチケットを買い、おしゃれして出かけて行き、音響が計算されつくした立派なホールで2時間かけてゆっくり音楽を楽しむ、それが“音楽”だと思っていました。“音楽”は特別な時に日常とかけ離れた空間で楽しむ贅沢品、そう思っていました。でも、五嶋みどりさんが当院の患者さんに届けて下さった感動は間違いなく“音楽”でした。「音楽って、もっと身近でいいんやな。」そんな学びを得た一日でもありました。

再び、五嶋みどりさんのお言葉を引用します。

「本物の音楽」という場合、そこには二つの意味があると考えます。ひとつは、完成度、芸術性の高い音楽ということです。ふたつめは、音楽の本質ということです。音楽を学び、演奏することによって、その音楽を作った人間の人間性に触れる、その経験によって得られるもの、そのことが音楽の本質に触れるということでしょう。音楽を学ぶ者が、自らの演奏する音楽によって他者に何をもたらすことができるのか（または、何ができないのか）を知るとき、その人は音楽の本質を経験することになるのだと考えます。

音楽を通じた社会貢献活動を続けておられる五嶋みどりさんと協力アーティストさんに心からの感謝と尊敬の念を送りたいと思います。

素敵な音楽を届けて下さって、本当にありがとうございました。